

レース：Région Pays de la Loire Tour - Féminin

日付：2026/4/8

天候：晴れ

結果：28位

自身初となるフランスでのレースであった。集団の動きやコース内容は、普段走り慣れているベルギーのレースとは大きく異なっていた。

今回のレースはスタートとフィニッシュが異なるラインコースであり、周回コースとは違い、路面状況や道幅の変化に対して、これまで以上に慎重な対応が求められた。

スタートは予定より5分早く切られ、全選手が揃っていない中でのスタートとなり、集団は一時的に混乱状態となった。約2km進んだ地点でレースは一度停止し、全選手を待つイレギュラーな展開となったが、冷静に対応することができた。

その後アクチュアルスタートが切られると同時に複数の選手がアタック。この動きはレース終盤の残り10km地点まで続く逃げとなった。チームとしてはこの動きに乗ることができず、メイン集団でのレース展開となった。

集団内でも断続的にアタックは発生したが決定的な動きには至らず、自分は常に集団前方で展開をコントロールする形で走行した。今回のコースは丘陵基調であり、加えて道幅が狭い区間も多かったため、後方に位置すると落車リスクやブレーキングが増え、終盤に影響が出ると判断したためである。チームメイトのサポートもあり、残り5km地点まで良いポジションを維持することができた。

残り5kmからはフィニッシュに向けて位置取り争いが激化し、同時にコースは狭くテクニカルな区間へと変化。フィニッシュ500m手前を約30番手で通過したが、スプリントに向けて加速したタイミングで前方にて落車が発生し、複数の選手が巻き込まれる事態となった。自身およびチームメイトは回避できたものの、先頭争いに加わることはできなかった。

結果はUCIポイント圏内まであと一歩となる28位でのフィニッシュであった。

異なるレース環境の中でも、自分の走りを維持し、プロチームの選手に混じって集団前方で展開できたことは、これまでの欧州での経験が活かされている証であると感じている。今後フランスでのレースが増える中で、この経験を次に繋げていきたい。



レース：Grand Prix Féminin de Chambéry

日付：2026/4/19

天候：晴れ

結果：41位

ヨーロッパでは初となる山岳レースに出場した。本格的な長距離クライムではなく、約1km・平均勾配8%前後の登りが連続するパンチーなレイアウトであった。

昨年は出走約100名に対し完走者40名前後という非常に厳しいレースであり、今回もサバイバルレースになることが予想された。

コースは小ループと大ループを組み合わせた周回コース。試走時に、道幅の狭さやタイトなコーナー、さらにその直後に現れる急坂など、非常にテクニカルな構成であることを確認した。特に小ループはそれが連続し、集団内で20~30番手以内に位置しなければ完走すら困難であると判断した。

ワールドツアーチームも参戦する中、レースはスタート直後からハイペースで展開。特にレースを熟知しているワールドツアーチーム主導で位置取り争いが激しくなった。

自身は位置取りを得意としており、今回も安定して前方でレースを進めることができた。その結果、大ループの本格的な登りに入るまでは余裕を持って対応することができた。

しかし後半の登坂区間でペースが一段と引き上げられ、集団は完全に崩壊。何とか食らいついたものの、先頭集団からは遅れ、第2集団での走行となった。

先頭集団の多くはワールドツアーおよびプロチームの選手で構成されており、タイム差は拡大。一時は10分以上の差がついたが、先頭は19名と少人数であり、UCIポイント圏内（25位）にも満たない状況であったため、第2集団であっても重要なレース展開であった。

最終周回に入り、残り10km地点付近でレースが一時中断。理由は先頭集団とコース上で重複が発生したためであった。約10分後に再開されたが、安全確保のため先導付きでの走行となり、その後も十分な説明がないままレースは進行しフィニッシュを迎えた。

不完全燃焼な部分はあったものの、完走者48名という厳しいレースで結果を残せたことは大きな自信となった。一方で、極限状態からさらにペースを上げる力に課題があることも明確となった。



総括

4月は初めて経験するレースが多い期間となったが、その中で自身の強みと課題を明確に把握することができた。

来月はステージレースに加え、UCI1クラスのレースが4戦控えている。また、高地トレーニングも予定しているため、体調管理を徹底し、すべてのレースに万全の状態でも臨めるよう準備していく。

